

提出日：2010年8月31日

東京大学大学院 人文社会系研究科

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣帰国報告

Université de Tokyo, Ecole doctorale des sciences humaines et sociales

Programme mobilité et innovation en sciences humaines et sociologie

Rapport d'activités

【Un été à l'ENS / パリ高等師範学校夏期大学】

神山紗良

フランス語フランス文学研究室 修士1年

派遣形態：推奨プログラム

研修の概要

1. 基本情報

フランス・パリ

Ecole normale supérieure / パリ高等師範学校

2. 派遣期間

2010年7月16日～2010年8月9日（総日数25日）

3. 研修スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
9h-10h30	FLE (フランス語)	FLE (フランス語)	FLE (フランス語)	FLE (フランス語)	Philosophie (哲学)		
11h-12h30	Philosophie (哲学)	Littérature (文学)	Philosophie (哲学)	Littérature (文学)	Littérature (文学)		
14h30-17h30	Atelier pratique de théâtre (演劇)	Conférence (講演)		Atelier pratique de théâtre (演劇)	Atelier pratique de théâtre (演劇)		
17h30-		Soirée du cinéma (映画上映会)				Théâtre (観 劇) など	

提出日：2010年8月31日

東京大学大学院 人文社会系研究科

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣帰国報告

Université de Tokyo, Ecole doctorale des sciences humaines et sociales

Programme mobilité et innovation en sciences humaines et sociologie

Rapport d'activités

【Un été à l'ENS / パリ高等師範学校夏期大学】

神山紗良

フランス語フランス文学研究室 修士1年

派遣形態：推奨プログラム

当初の計画

ルソーの小説作品において、ルソーの思想と人間性がどのように交錯するのか。本プログラムの人文社会系選択講義では、第一にこの研究課題の土台となるフランス文学・思想に関する見識を深めたいと考える。また、現地での研修を通じて、ルソーの人間形成に大きく関わったパリの社会や文化を理解すること、またテキスト読解の基本となる語学能力を鍛え、さらには今後の研究発表を視野に入れたコミュニケーション能力の向上をはかることも目標とする。

達成された成果

哲学の講義では「人間の特性」というひとつのテーマについて、古代から現代に至るまでの重要な議論を概観したため、ルソーの具体的な議論に連なる思想史を知ることができた。また講義のテーマに関する議論に参加したこと、フランス語の授業で会話に不慣れた学生のために議論の時間が多く設けられたことは、当初の計画であるコミュニケーション能力の向上に大いに役立った。

計画外の成果としては、文学の講義において、18世紀のルソー研究ではあまり触れることのない現代文学を多く読解できたこと、それによってフランス文学史全体への理解が深まったことである。またこの文学の講義や語学の授業では、他国の文学作品（フランス語訳）のテキスト分析も行った。これを通じて、フランスの研究者が日本を含めた異文化をどのような方向性で解釈するのかを見ることができたことは新鮮であった。

全体的な感想

以上のような成果を得られたのは、ひとえにパリ高等師範学校のプログラムに集まる先生方、

各国の学生との新たな出会いに負うところが大きい。とくに学生に関しては、その語学能力の高さ、自分の専門分野の内外において大胆に議論していく積極性、そしてハードなスケジュールをこなしていくその体力に大いに刺激を受けた。しかしそれは同時に、論点のずれない丁寧な議論を心掛けるという日本人の長所を再認識することにも繋がった。今後は両方の能力を身に付けたい。

座学の講義以外には、演劇のアトリエを選択した。各国の学生とフランス語で実際にひとつの芝居を作り上げるのは、日本では実現できない楽しい体験だった。語学能力の不足が原因で、望む表現ができないことがしばしばあったが、そのような制約下にあったからこそ、質問や意見を直接的に堂々と発言する習慣が否応なしに身についたように思う。またこのアトリエでは学校の公式プログラムとは別に観劇に行く機会も作られ、フランス人の観客で満員の劇場で今をときめくフランス喜劇を鑑賞できたことは、文化や芸術を考える上でも貴重な体験だった。

今回のプログラムは、各学問領域の専門性を深められるとともに、講義とアトリエの選択や多様なバックグラウンドを持った学生との交流を通じて、各領域を横断することができる点が魅力的だった。実際、授業がきっかけでルソーの別のテキストを読み、新たな面白さを発見するということがあった。今後は修士論文の準備を視野に入れ、小説作品のみに拘ることなく文学と思想の横断を試みて行きたいと考えている。